

報告事項 9

「平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を受けた今後の取組
について

「平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を受けた今後の取組につ
いて、別紙のとおり報告する

平成 30 年 4 月 16 日提出

神戸市教育委員会

教育長 長 田 淳

【報告事項9】「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果を受けた今後の取組について

年度	H28年度の取組	H29年度の取組	今年度(H30年度)の取組	
取組対象	H28年度の取組	H29年度の取組	今年度(H30年度)の取組	
	「こうべっ子！体力アップ推進事業」			
児童・生徒	＜こうべっ子チャレンジ！新体力テスト＞(小4～6)・＜こうべスポーツテスト>(中1～3) ・新体力テストの結果について、個人で自分の記録を記入し、保管			
	＜神戸市小学生陸上競技記録大会の開催＞(小5・6)			
	＜体力アップ重点校(20校)の実施と伝達＞(小)	＜体力アップ重点校(25校)の実施と伝達＞(小)	※1＜体力アップ重点校(20校)の実施と伝達＞(小)	
	・取組内容や成果について、年度末に報告書を情報提供。また、教育フォーラムの場で発表		・取組内容や成果について、年度末に報告書を情報提供	
	＜体力アップ通信の発行＞(小)			
	・学識経験者やアスリートから、運動・スポーツへの意欲・関心向上、重点種目の力の伸びにつながるポイントを伝える	・新体力テストの各種目がどのような体力要素を測定しているのか、各種目の動きを高める運動遊びを紹介する		
	特に苦手な子供	＜あおぞら水泳教室の開催＞(小6) ・泳ぎが苦手な6年生(泳力25m未満) ・4日間実施		
	特に苦手な子供	※2 ＜「できたよ！教室」の開催＞ ・全小学校の4年生から6年生を対象。平日の放課後に各校で実施。器械運動が苦手な子供中心に希望者を募る。外部指導者を派遣。 ○年間、小学校50校程度実施(小4～6) ○H27年度53校・H28年度44校・H29年度67校において開催し、3か年で全市164校実施 ・跳び箱運動が苦手な児童対象 ⇒ 運動が好きな児童を増やす		
			※3【試行】＜「やってみよう！教室」の開催＞ ・小学1年生を対象 ・体幹を鍛える動きを中心とした授業を、スポーツ指導専門の外部事業者が教員とともに ・20校で実施予定	
	教職員	＜「神戸市小学校体育指導のてびき」の活用促進＞(小) 平成32年版 神戸市小学校体育指導のてびき 作成委員会		
＜全市体育研究指定発表会＞ ・幼稚園1園・小学校2校・中学校1校・高等学校1校				
＜学校体育指導(20校)の実施＞(小)				
＜幼稚園運動遊びの充実＞ ・運動遊び研究会での伝達講習の充実 ・運動遊びの内容・実施状況把握				
・運動遊びの重要性についての研修 ・取組内容や成果を教育フォーラムの場で発表				
＜教員の指導力向上＞(幼・小・中)				
・全市体育・運動遊び研究指定発表会や学校体育指導、全市伝達講習会、各区実技講習会初任者研修等における内容の充実 例)運動が苦手な子供たちへの指導法(言葉かけ・場づくり・補助等)の工夫 ・運動(遊び)の重要性についての研修 ・各校の体育学習の内容・実施状況把握		→新体力テストの有効的な活用についての講習 例)新体力テストの各種目がどのような体力要素を測定しているのか、各種目の動きがどのような運動遊びとつながりがあるかについて、認識を高める		
保護者	＜体力アップ通信の発行＞(幼・保・小) ・子供と大人と一緒に取り組める運動等紹介 ・学識経験者から、重点種目の動きを高め、力を伸ばすためのポイントを伝える ・「幼少期の運動遊び」の内容について、保護者にも紹介し、運動遊びの日常化を図る	＜体力アップ通信の発行＞(小・中) 新体力テストの各種目がどのような体力要素を測定しているのか、各種目の動きを高める運動遊びやスポーツを紹介する		

(1) 「こうべっ子！体力アップ推進事業」について

- ・平成28年度に、スポーツ庁の「子供の体力向上課題対策プロジェクト」を実施した。
- ・子供の体力に関して専門的知識のある大学教授や幼稚園・小学校の教員、保護者等を委員とし、神戸市の子供たちの体力向上について推進委員会を設置し、調査・分析・研究を行った。

(2) 「体力アップ重点校」の実施と伝達について（※1）

- ・新体力テストの結果をふまえ、体力づくりに取り組む学校を指定する。（2カ年指定）
- ・体育学習、それ以外の時間も利用し、運動や遊びを通して、児童の体力アップを図る。
- ・今年度（H30年度）は計20校で実施。

(3) 「できたよ！教室」の開催について（※2）

- ・種目は、器械運動から実施。器械運動は、子供たちにとって、できる・できないがはっきりしており、恐怖感を抱きやすい。そこで、恐怖感を取り除き、達成感を得られるように、器械運動の跳び箱から実施する。
- ・対象学年は小学校4年から6年。放課後に年間1回実施し、主に苦手な児童を対象とする。
- ・外部の指導員を市内67校程度に派遣。学校規模にあわせ、指導員は3～5名程度。H27～29の3カ年で全市164校で実施した。
- ・H30も同様の事業を2巡めとして展開し、3年間で164校全校にて実施する予定。

(4) 「やってみよう！教室」の開催について（※3）

- ・幼少期における多様な運動経験が、児童の運動能力・運動習慣を養ううえで重要である。
- ・1年生を対象に、全ての運動の基盤となる「体幹を鍛える動きを中心とした運動遊び」を体づくり運動の授業で行う。
- ・外部の指導員を市内20校程度に派遣。指導員は2名程度。教員とともに授業を行う。